

私達が「エアフロー プロフィラキシス マスター」に魅了された理由 ～歯科衛生士と共に取り組む効果的かつ効率的な歯周治療と歯科医院経営の両立～

医療法人ジニア ばんだ歯科
理事長
須崎 明 先生
(Dr. Akira Suzuki)

歯科衛生士
坪井奈津美 先生
(Dh. Natsumi Tsuboi)



当院では以前よりEMS社のエアフロースターピエゾン（以下従来品と略す）を中心とした超音波治療器を5台使用していました。そんな時、効果的な歯周治療およびメンテナンスを実現するためのGBT(Guided Biofilm Therapy)コンセプトとそれを効率的に実践するための エアフロー プロフィラキシス マスター（以下AFPMと略す）に出会いました。そこでスタッフと共にそれらの有用性を検討した結果、当院に導入することとなりました。現在ではGBTコンセプトのもと4台のAFPMを用いながら歯科衛生士とともに効果的かつ効率的な歯周治療とメンテナンスを実践しています。そこで今回は、当院がAFPMを導入した経緯とその理由、またGBTコンセプトに基づくAFPMによる歯周治療やメンテナンスの実際を紹介させていただきます。そしてそれらがもたらす医院経営への影響についても参加者の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

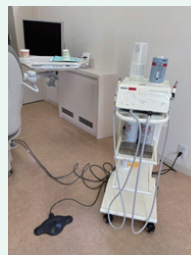
講演のポイント

【GBTのココがすごい】

歯周治療のゴールは患者自身（宿主）の抵抗性と病原性の低いバイオフィームとの均衡（symbiosis）が保たれている状態とされています。GBTは多くのエビデンスを背景に構築されたプロフェッショナルによる機械的なバイオフィーム除去およびホームケアのための口腔衛生指導に従った効果的かつ効率的なプロトコルです。さらに常に新しいエビデンスによりアップデートされるため、自信をもって患者に施術することが出来ます。

【AFPMのココがすごい】

AFPMはフットペダルがワイヤレスでチェアからはエアーのみの接続なので従来品と比較して設置スペースを取りません。またAFPMもアップデートするGBTを効果的かつ効率的に実践するために進化し続けています。



【GBTの実際とAFPM使いこなしの勘所】

AFPMの特徴を理解して歯や歯周組織への侵襲を最小限にすることがGBTを成功させる近道です。今回は臨床例を通してGBTの実際とAFPM使いこなしの勘所についてお話させていただきます。



歯肉縁下の ヘリオ

【GBTがもたらす医院経営への影響】

当院ではGBTに基づいた歯周治療やメンテナンスを保険診療（チェアタイムは60分が基本）で行っています。高価なAFPMを導入して保険診療でのバイオフィームのコントロールは医院経営が成立するのでしょうか。この点について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

